

平成24年度

福岡市基本計画に係る実施状況の報告

福岡市

福岡市市行政に係る重要な計画の議決等に関する条例第4条の規定に基づき、平成24年度の福岡市基本計画に係る実施状況を報告する。

平成25年9月13日

福岡市長 高島 宗一郎

目 次

	ページ
1 はじめに	
(1) 施策評価による基本計画の実施状況の把握	… 2
(2) 施策評価の基本的な流れと平成 25 年度 of 取組み	… 3
(3) 施策評価シート等の記入例	… 3
2 福岡市基本計画の実施状況	
(1) 分野別目標	… 7
目標 1 一人ひとりが心豊かに暮らし、元気に輝いている	… 9
目標 2 さまざまな支え合いとつながりができている	… 55
目標 3 安全・安心で良好な生活環境が確保されている	… 75
目標 4 人と地球にやさしい、持続可能な都市が構築されている	…115
目標 5 磨かれた魅力に、さまざまな人がひきつけられている	…147
目標 6 経済活動が活発で、たくさんの働く場が生まれている	…169
目標 7 創造的活動が活発で、多様な人材が新しい価値を 生み出している	…195
目標 8 国際競争力を有し、アジアのモデル都市となっている	…219
(2) 区のまちづくり目標	…259

1 はじめに

本報告書は、福岡市市行政に係る重要な計画の議決等に関する条例第4条に規定する「基本計画に係る実施状況」として、第9次福岡市基本計画を対象に実施した施策評価の結果を取りまとめたものである。

福岡市総合計画の概要

福岡市総合計画は、福岡市の将来の健全な発展を促進するために策定する市政の総合的計画のことで、「基本構想」、「基本計画」、「実施計画」の3つで構成される。

基本構想・・・福岡市が長期的にめざす都市像を示したもの
(平成24年12月策定、目標年次：なし)

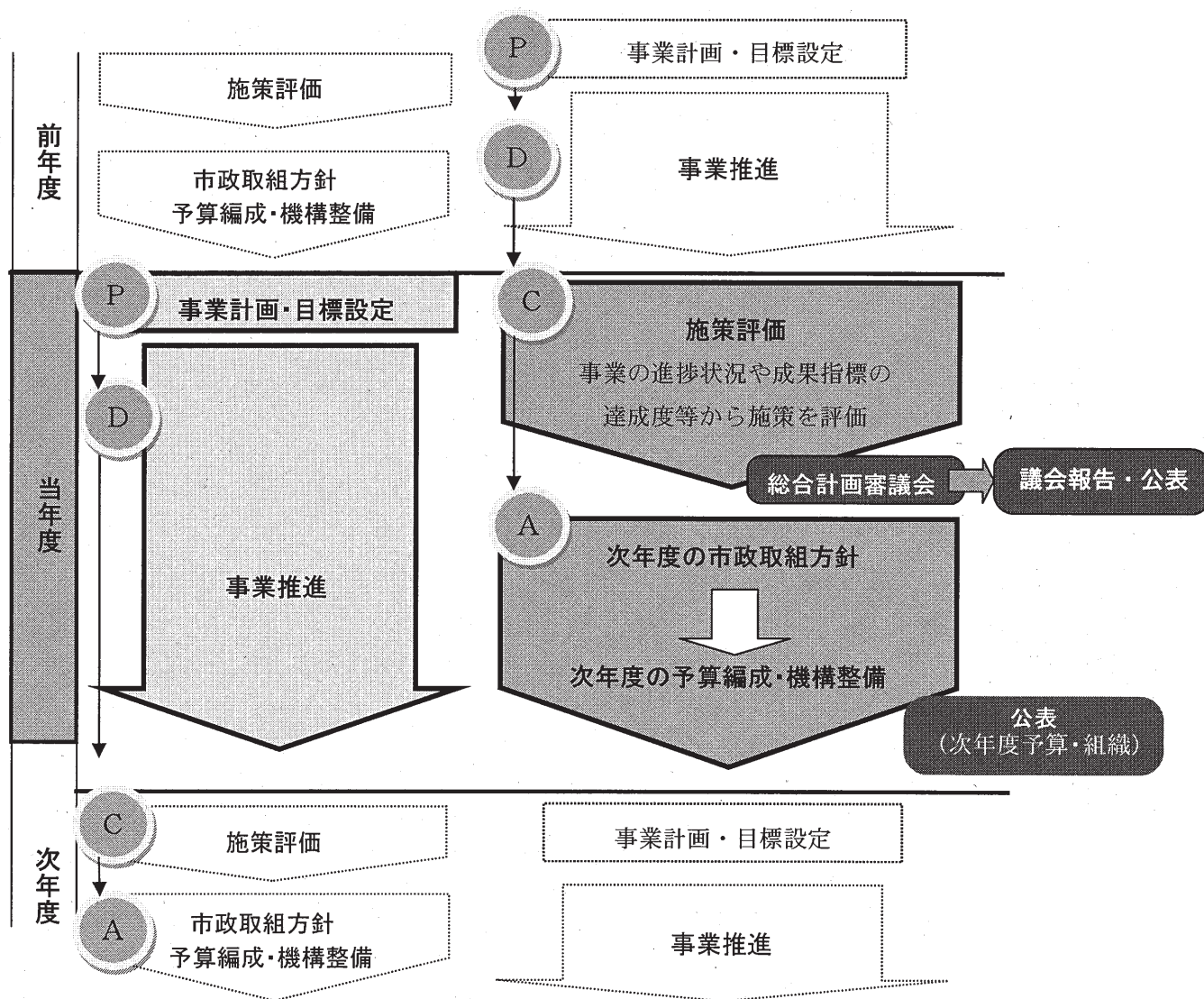
基本計画・・・基本構想に掲げる都市像の実現に向けた方向性を、まちづくりの目標や施策として総合的・体系的に示した10年間の長期計画
(平成24年12月策定、目標年次：平成34年度)

実施計画・・・基本計画を推進するにあたって、福岡市が取り組む具体的な事業を示した(政策推進プラン) 4年間の中期計画
(平成25年6月策定、目標年次：平成28年度)

(1) 施策評価による基本計画の実施状況の把握

- 「施策評価」は、PDCA方式(※)の徹底を図りながら、基本計画に基づく施策事業の進捗状況を定期的に把握・評価し、次年度の予算編成に反映することなどにより、施策事業の着実な推進を図るもの。
- 福岡市では、平成25年度から施策評価を導入し、その結果を「基本計画の実施状況」として取りまとめるもの。

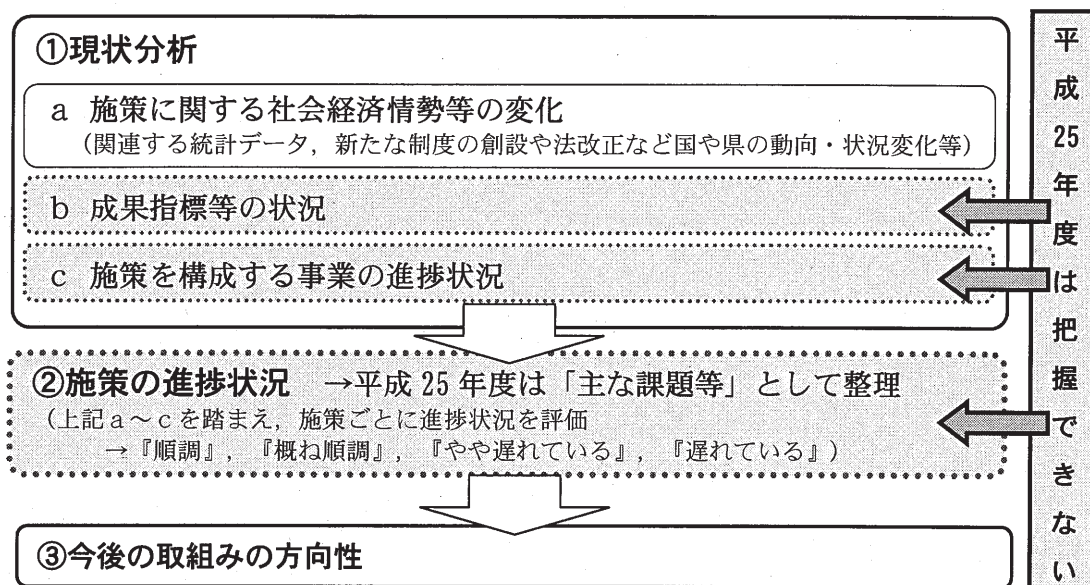
■ PDCA方式による進行管理の流れ



※ PDCA方式とは、政策の企画立案 (Plan)、実践・執行 (Do)、評価・点検 (Check)、改革・対策の実施 (Action) の繰り返しにより経営管理を行う手法。マネジメントサイクル。

(2) 施策評価の基本的な流れと平成 25 年度 of 取組み

- 施策評価は、第 9 次福岡市基本計画に掲げる 51 施策を対象に、施策単位で実施する。まず、施策の「①現状分析」を行い、これを踏まえ、「②施策の進捗状況」を評価し、「③今後の取組みの方向性」を整理する。



- 平成 25 年度は、実施計画を 6 月に策定し、計画に基づく取組みの初年度であるため、「①現状分析」において「b 成果指標等の状況」、「c 施策を構成する事業の進捗状況」が把握できないことから、「②施策の進捗状況」を適切に評価できない。
したがって、平成 25 年度に実施する施策評価については試行的な取組みと位置づけ、本年度の施策評価の実施状況を検証し、制度の改善・充実を図り、平成 26 年度から施策評価を本格実施する。

(3) 施策評価シート等の記入例

- 施策評価の結果は、「分野別目標総括シート」、「施策評価シート」、「事業一覧」によってまとめている。

上述のとおり、平成 25 年度は新たな計画に基づく取組みの初年度であり把握できない項目等があるため、各シートで記載できない項目等がある。

- ・ 「施策評価シート」・・・「成果指標の実績値」、「施策の評価」の記載ができない。このため本年度は、「施策の進捗状況」に代わるものとして、統計データ等によりできるだけ定量的に施策の実施状況の把握に努め、「主な課題等」をまとめている。
- ・ 「分野別目標総括シート」・・・施策評価シートに記載がなく、「施策の進捗状況」「成果指標の達成状況」の記載ができない。

- 施策評価シート等の記入例は以下のとおり。

<記入例>

分野別目標総括シート

分野別目標1 一人ひとりが心豊かに暮らし、元気に輝いている

<めざす姿>

- ユニバーサルデザインの理念によるまちづくりが進み、誰もが思いやりをもち、すべての人にやさしいまちになっています。一人ひとりの有無などにかかわらず、多様な市民が、元気に歳を重ねながら積極的に社会参加し、活躍しています。安心して快適に、笑顔で暮らしています。
- 市民が文化芸術やスポーツ・レクリエーションを楽しんでいます。
- 多様な保育サービスが充実したため、子どもたちが、自ら学ぶ意欲と志を持って育ち、心豊かにたくましく育っています。世代の人とのふれあいや、さまざまな経験、学習を通じ、心豊かにたくましく育っています。

「成果指標の達成状況」には、「A」、「B」、「C」、「-」のいずれかを記入（来年度以降記載）

- 「A」：中間目標に向けて順調
- 「B」：指標は改善している、又は現状維持
- 「C」：指標が悪化している
- 「-」：指標が把握できない（判定不能）

	施策	施策の進捗状況	成果指標	
			指標の項目	達成状況
1-1	ユニバーサルデザインの理念によるまちづくり	—	ユニバーサルデザインの概念の理解度	—
			ユニバーサルデザインの取組みへの評価	—
1-2	すべての人の人権が尊重されるまちづくりと男女共同参画の推進	—	一人ひとりの人権が尊重されていると感じる市民の割合	—
			男女の固定的な役割分担意識の解消度	—
1-3	一人ひとりが健康で、生涯元気に活躍できる社会づくり	—	健康に生活している高齢者の割合	—
1-4	心豊かに文化芸術を楽しむまちづくり	—	文化芸術を鑑賞する市民の割合	—
			文化芸術活動を行う市民の割合	—
1-5	スポーツ・レクリエーションの振興	—	身近なスポーツ環境に対する満足度	—
			スポーツ活動をする市民の割合	—
1-6	すべての人が安心して暮らせる福祉の充実	—	福祉の充実に対する満足度	—
			障がいのある人が暮らしやすいまちだと感じている市民の割合	—
1-7	子どもが健やかに育ち、安心して生み育てられる社会づくり	—	子育て環境満足度	—
			保育所入所待機児童数	—
1-8	自ら考え、学び、行動する子ども・若者の育成	—	地域の遊び場や体験学習の場への評価	—
			学校の教育活動に対する満足度	—

「施策の進捗状況」には、「順調」、「概ね順調」、「やや遅れている」、「遅れている」のいずれかを記入（来年度以降記載）

施策評価シート

分野別目標	1	一人ひとりが心豊かに暮らし、元気に輝いている		
施策	1-1	ユニバーサルデザインの理念によるまちづくり		
施策の方向性	ユニバーサルデザインの理念に基づいた、誰もが思いやりをもち、すべての人にやさしいまちの実現をめざし、すべての人が安全で快適に利用できるバリアフリーのまちづくりを進めるとともに、市民に対してユニバーサルデザインの考え方を広げ、思いやりの心を育みます。			
施策主管局	保健福祉局	関連局	総務企画局、住宅都市局、道路下水道局、港湾局、交通局、教育委員会	

《施策事業の体系》

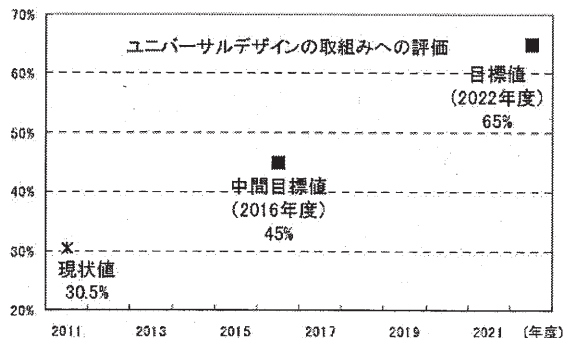
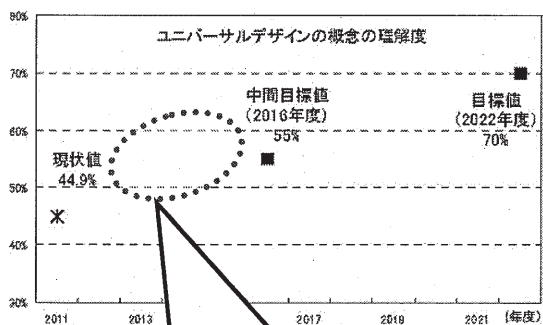
★：新規事業、◆：区事業 / 太字：重点事業、その他：主要事業

(施策1-1)ユニバーサルデザインの理念によるまちづくり

- **ユニバーサル都市・福島の推進**
- **ユニバーサル都市・福島の推進**
- **バリアフリーのまちづくりの推進**(道路、バス・鉄道駅、市営住宅等)
- **サービス付き高齢者向け住宅供給促進事業<再掲3-3>**
- ユニバーサル教育の推進

《成果指標》

指標項目	現状値	中間目標値	目標値
		2016(平成28)年(度)	2022(平成34)年(度)
ユニバーサルデザインの概念の理解度 (ユニバーサルデザインという言葉の意味を知っている市民の割合)	44.9% (2011年度)	55%	70%
ユニバーサルデザインの取組みへの評価 (ユニバーサルデザインの取組みが進んでいると思う市民の割合)	30.5% (2011年度)	45%	65%



来年度以降は、成果指標の実績値を記載

来年度以降は、「施策の評価」（成果指標や事業の進捗状況等）を記載

1 主な課題等

●ユニバーサル都市・福岡の推進

- ・少子高齢化の進展、子どもを持つ世帯の増加、外国人登録者数の増加、障がい者数の増加等に伴い、ハード・ソフト両面から誰もが過ごしやすい環境づくりが求められている。
 - 〔高齢者数の増加 H17：213,380人（15.2%）→H22：254,085人（17.6%）
 - 〔障がい者数の増加 H17：49,427人（3.7%）→H22：64,374人（4.5%）
- ・「福岡市交通バリアフリー基本方針」（H14）にて、11の重点整備地区を定め、各地区内の旅客施設と主な主要施設を結ぶ経路を「特定経路」とし、重点的にバリアフリー化整備を推進。（整備率H18n末：38%→H23n末：84%）
- ・バリアフリー法に基づく国の基本方針が改正（H23.3月）、旅客施設等の新たなバリアフリー化整備目標が示された。
 - 〔1日平均利用客数3,000人以上駅のバリアフリー化率：目標100% → 福岡市 95.0%（57駅/60駅）（H24n）
 - 〔ノンステップバス導入率：目標約70% → 福岡市 約2.5% *地下鉄駅は既に目標達成
- ・「福岡市バリアフリー基本計画」策定（H25.4月）。生活関連施設相互を結ぶ生活関連経路等のバリアフリー化整備を行う19地区の重点整備地区を設定。また、「心のバリアフリー」の推進を明確化。
- ・「福岡市道路整備アクションプラン2016」（H25.6月）による歩道のフラット化率は25%（H24.4.1）（目標H28n末：31%）
- ・バス停の上屋やベンチは、これまでバス事業者がサービスの一環で設置。景気悪化等から近年その数は鈍化傾向。
- ・施設ごとにバリアフリー化が行われ、歩道と建物の境界で誘導ブロックが途切れるなど連続的なバリアフリー化が図られていない、迷惑駐輪等でバリアフリー化が阻害されるなどソフト面での対策が不十分などの課題がある。
- ・市営住宅での高齢化率は28.0%（H25.3月）。単身・夫婦のみ高齢者世帯の急激な増加等を背景として、「高齢者の居住の安定確保に関する法律」改正（H23）により、見守り付きの「サービス付き高齢者向け住宅」の登録制度が創設。

※施策を構成する事業の実施状況は、別紙「事業一覧」のとおりです。

2 今後の取組みの方向性

●ユニバーサル都市・福岡の推進

- ・表彰制度創設やNPO等の取組みを支援するなど、ユニバーサルデザインの考え方の普及啓発を図り、理解を深める取組みを行う。
- ・児童生徒が相手をいたわり、思いやるユニバーサルな心の素地を養うため、体験活動や実践発表会の開催などユニバーサル教育を推進する。
- ・バリアフリー推進協議会等で意見交換や検証を行い、多様な利用者の声を施設管理者に伝える仕組みづくりを行う。
- ・国の新しい整備目標の達成に向け、「福岡市バリアフリー基本計画」に基づき、ユニバーサルデザインの理念によるまちづくりを推進する。
- ・特に、進捗が遅れているノンステップバスの導入については、更なる促進を図るため、国や交通事業者の動向を踏まえ、支援を拡大する。また、バス停の上屋やベンチの設置については、道路幅員やバス乗降状況等の設置基準を設け、バス事業者との役割分担を行い、計画的な整備に取り組む。
- ・市営住宅は、建替や住戸改善にあわせ、ユニバーサルデザインの導入を図る。サービス付き高齢者向け住宅は、登録制度及び建設補助制度等を事業者へ広報・周知することにより、供給促進を図る。